

◆◆ 成果と今後の取り組みについて ◆◆

成
果

＜全道と比較し、正答率が特に高かった問題＞

- 小学校の国語は、詩の情景を叙述を基に想像しながら読んだり、相手や目的に応じて敬体と常体との違いに注意して書いたりする問題で正答率が高い。
- 小学校の算数は、引き算とかけ算の混合計算や（ ）を用いた整数の計算、棒グラフの読み取りの問題、基になる数値の何倍かを求める問題で正答率が高い。
- 中学校の国語は、文章に合う図表を選択したり、文章を目的に応じて適切に直したりする問題、漢字の楷書と行書との違いを理解して書いたり、文章にふさわしい語句を書いたりする問題、また、文章の段落の関係を理解し内容を正確にとらえる問題で正答率が高い。
- 中学校の数学は、絶対値の問題や小数を含む一元一次方程式を解く問題、数量の変化を正確に表しているグラフを選択する問題で正答率が高い。

こんな学習の充実を（小学校）

○ **国語A**は、漢字を正しく読んだり書いたりする力を高めるために、繰り返し学習の工夫を図る。また、文の結びつきを考え適切な言葉を選択する問題や、目的や意図に応じ適切に書く力を高めるために、文章の役割や意味を考えながら接続の関係を整えたり、目的や意図に応じて分かりやすく書いたりする学習の充実を図る。

○ **国語B**は、話し手の意見と理由をまとめたり、自分の考えを効果的に書いたり、伝記を読み比べて読み取ったり、考えを深めたりする力を高めるために、書いてまとめる活動や「文章中の言葉を使って」書く活動を位置付けるなど、条件に応じて書く学習の充実を図る。

○ **算数A**は、はかりの目盛を読んだり、平行四辺形の面積を求める、また、割合の関係を理解する力を高めるために、筋道を立てて考えたり、下学年における小数や分数の学習、「基準とする量」と「比較する量」の関係を理解する学習の充実を図る。

○ **算数B**は、長方形の紙を折ってできた四角形や2つの量（小数）の関係の意味を記述する力を高めるために、筋道を立てて考え表現し、他者の考えと比較・検討して記述する学習の充実を図る。

こんな学習の充実を（中学校）

○ **国語A**は、漢字を正しく読んだり書いたりする力を高めるために、繰り返し学習の工夫（文脈に即し正しい漢字を書く）を図る。また、話し合いの方向をとらえた的確な発言をする力を高めるために、他者の考えや意見を判断しながら的確に発言する学習の充実を図る。

○ **国語B**は、自分の考えを既存の情報や今までの体験、読書の経験を基に書く力を高めるために、字数や用いる語句などを吟味し、条件に応じて書く学習の充実を図る。

○ **数学A**は、平行四辺形になるための条件を選んだり、反比例や中央値の意味を考えたりする力を高めるために、図形の概念理解や量の変化を考える学習の充実を図る。

○ **数学B**は、資料から読み取った情報の判断理由や新たな性質を理解する力を高めるために、資料から必要な情報を正確に読み取り、数理的に考える学習の充実を図る。

◆◆ 児童生徒に対する調査（児童生徒質問紙）より ◆◆

- 家庭での学習の状況（1日当たり1時間以上勉強すると回答した児童生徒の割合）
全道と比べ、小学校（32.2ポイント）で9.6ポイント、中学校（51ポイント）で12.9ポイント低いという結果でした。
- 学校の宿題の実施状況（家で学校の宿題をしていますかという問いに対し、「している」「どちらかといえばしている」と回答した児童生徒の割合）
全道と比べ、小学校（82.3ポイント）で7ポイント、中学校（70.2ポイント）で7.9ポイント低いという結果でした。

※ 各学校では、結果の分析を行い、「学校改善プラン」に今後の具体策を位置付け、学力向上に向けた取り組みを進めています。

平成23年度全国学力・学習状況調査結果の概要

～北海道・鹿追町の調査結果のポイントについて～

鹿追町教育委員会

各学校が、児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善に役立てるとともに、学校自らが教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るために、平成23年9月27日に、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。

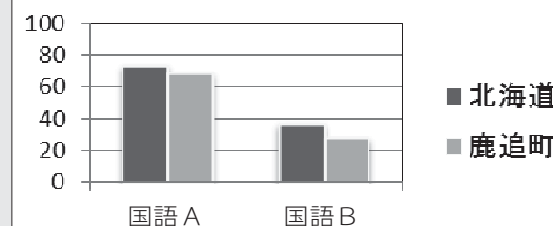
調査の対象学年や調査の内容は、以下のとおりです。

平成23年度全国学力・学習状況調査の概要

- 対象学年 小学校6年生、中学校3年生
- 調査内容 ①教科に関する調査（国語、算数・数学）
 - ・主として「知識」に関する問題[国語A、算数A・数学A]
 - ・主として「活用」に関する問題[国語B、算数B・数学B]
- ②生活習慣や学習環境に関する質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査

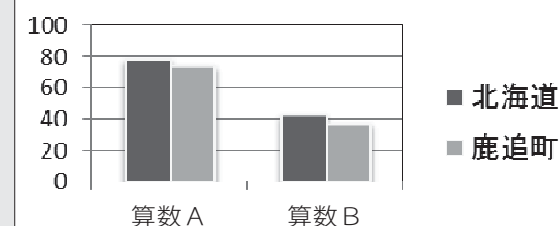
●● 教科に関する調査結果全道平均との比較 ●●（今年度は全国平均が出ておりません）

小学校6年生 国語



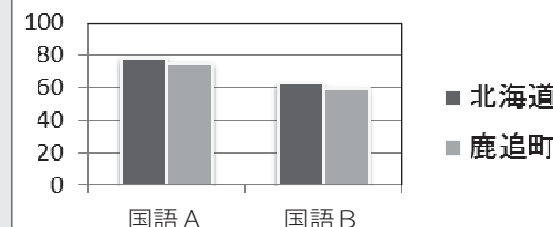
国語A、国語Bとも、設問により正答率の差があり、平均点が低くなっています。特に、国語Bに課題が見られ、今後知識を活用する力を育成していく必要があります。

小学校6年生 算数



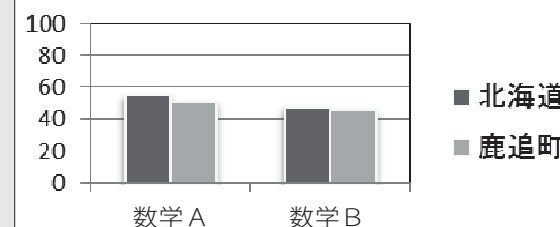
算数A、算数Bともに、国語同様設問により正答率の差があり、平均点が低くなっています。特に、算数Bに課題が見られ、今後知識を活用する力を育成していく必要があります。

中学校3年生 国語



国語A、国語Bともに、ほぼ全道平均と同様の結果でした。国語A、国語Bともに、一部の設問における正答率が低く、今後これらの課題を克服する必要があります。

中学校3年生 数学



数学A、数学Bともに、ほぼ全道平均と同様の結果でした。数学A、数学Bともに、一部の設問における正答率が低く、今後これらの課題を克服する必要があります。